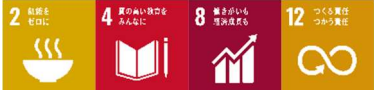




研究者名※	小林 富雄 KOBAYASHI Tomio	学位※	博士(農学) 博士(経済学)
所属※	家政学部 家政経済学科	職名※	教授
連絡先	kobayashit@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://tomiontom.wixsite.com/foodsupplychain/blank-1 https://www.doggybag-japan.com/		
researchmap※	https://researchmap.jp/read0067268		
研究分野※	フードシステム論、マーケティング、ソーシャルマーケティング		
研究キーワード※	食品ロス、フードバンク、オルタナティブ・フードシステム、ファンドレイジング、ソーシャルプロモーション		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<p>「質的調整による食品ロスマネジメントの進展と持続可能性の理論化」科研費 基盤(C) 代表、2021-2023年</p> <p>「災害時の地方FSCの行動原理と戦略的意思決定の解明—効率性と頑強性の視点から—」科研費 基盤(C) 分担、2022-2024年</p> <p>「異業種共配による小ロット未梢流通体系の成立要件の解明」科研費 基盤(C) 分担、2019-2022年</p>		
社会貢献・産学官連携活動等	<p>農林水産省 令和3年度 JAS等の国際標準化による輸出環境整備委託事業「食品ロス及び廃棄の削減」に関する国際標準化(ISO/TC34/SC20)国内対応委員会委員長(FY2021)</p> <p>農林水産省 令和3年度 食育活動の全国展開委託事業「環境の視点を入れたフードガイド策定に向けたワーキンググループ」委員(FY2021)</p> <p>消費者庁:食品ロス削減推進大賞審査委員長(2020FY~)</p> <p>内閣府:食品ロス削減推進会議(2019FY~)</p> <p>環境省:中央環境審議会食品リサイクル専門委員会(2018FY~)</p>		
受賞歴	<p>日本農業市場学会学会誌賞(湯澤賞)「フードバンク活動における食品の収集方式と品揃え形成」(2019)</p> <p>日本流通学会奨励賞『食品ロスの経済学』(2016)</p>		

研究領域	食品ロス、フードロス、食品リサイクル、CSR、CSV、ESG、エシカル消費、ソーシャルマーケティング (SDGs) 
研究テーマ※	次世代フードサプライチェーンの研究
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>世界のサプライチェーン(SC)は、2015年に国連で定められた2030年までの持続可能な開発目標(SDGs)が設定されたことにより、新たな経営環境の変化に対応せざるを得なくなっている。これまでのような「売れるものを作る」、という概念から、モノ余りの時代に「必要な人にシェアする」という倫理観がビジネスにおいて重視されることを意味している。このような社会的な変化に応じたフードサプライチェーンの構築を目指すことを目的としている。</p> <p>これを実現する1つの考え方としてシェアリングエコノミーがある。この本質は過剰性であり、フードサプライチェーンではこれがフードロスという形で顕在化する。SDGs12.3には「2030年までに半減」と目標設定されているが、このフードロスのマネジメントは重要な次世代FSCを構築する施策の1つになる。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品仕入、販売、寄贈における質的マッチングシステムの開発 ・食べ残しの持ち帰り容器開発、普及啓発、システム構築支援 ・過剰食品の寄贈推進、寄贈団体ファンドレイジング支援(フードバンク、子ども食堂) <p>【研究方法の特色】</p> <p>現地調査、データ取得、分析、戦略策定、モデリング、競合調査、ロビー、メディア発信、執筆等。</p>
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・Soniya Billore, Tomio Kobayashi and Ou Wang (2021) Consumer attitudes towards leftover food takeout interventions: A case study of the doggy bag in Japan, British Food Journal, Vol. 123 No. 9, pp. 3228-3244. ・小林富雄・野見山敏雄編著(2019)『フードバンクの多様性とサプライチェーンの進化—食品寄付の海外動向と日本における課題—』 ・小林富雄(2020)『増補改訂新版 食品ロスの経済学』農林統計出版
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホアプリの開発、脱プラのための食品容器開発、ファンドレイジング(寄付募集)、エシカル消費等の戦略的広報の手法開発、学生の社会教育